

第18回 文の京クリーンウォーク開催

クリーンウォークとは、子どものボランティア精神と自主性を養い育成することを目的に、文京区内の小学4年生から中学生を対象とした、地域の清掃活動をする事業です。参加した生徒には、青少年委員会からボランティア認定証が発行されます。

平成30年11月19日(日)に、「第18回文の京クリーンウォーク」が汐見小学校を拠点に行われました。他校の児童・生徒や地域の人々とのコミュニケーションを楽しみながら、約1時間半の清掃活動を行いました。目的意識をもった子供達が多く、真剣に清掃活動に取り組む姿が見受けられました。ボランティア活動を通して自分の時間を人のために使う貴重な体験をすることができました。



汐見小エリアでボランティア活動、町の中をゴミ拾い

2班



いつも通る道でも、普段は全く気が付きませんでした。改めて見ると多くのゴミがあることに驚きました。



3班



大人も子どもたちとしっかりと対話し、関わりながらの清掃活動ができ、とても充実しました。

1班



子供どうしが仲良くなるのが早く、互いに協力して清掃活動ができました。大きな汚れは見当たらず、ゴミを探すのに苦労しました。軍手を使った清掃は、みんなで協力したのでとても好評でした。

4班



ゴミや汚れたところを探すのに、正に目が利く、鼻が利く子どもたちに、大人の私たちも学ぶところが多い1日でした。



今日の収穫。ゴミが少なく、宝探しのようなクリーンウォークでしたが、結果的には皆でこんなにたくさんの「宝物」を拾いました。



落ちているゴミを拾うだけではなく、「軍手ぞうきん」でガードレールや標識などもピカピカに磨きました。汚れが目立たなくても、意外と汚れていることも発見しました。



最後までナイショにしていた人が、軍手が一番汚れていた人を「汚れチャンピオン」と称して表彰しました。ただ今審査中!



小学生の部(左)、中学生の部(右)の汚れチャンピオン。中村会長から賞品のお掃除グッズが授与されました。今日はよく頑張りましたね。お家でも掃除のお手伝いしてくださいね!

第19回 文の京クリーンウォーク開催

平成31年2月17日(日)、「第19回クリーンウォーク」が小日向台町小学校を拠点に行われました。総勢90名近い人たちの熱気で冬の寒さも吹き飛ばされるようでした。子どもたちは、軍手でガードレールや看板などを競い合うように磨き、道路脇の草むらをかき分けて煙草の吸い殻や空き缶、空き瓶を拾っていました。これからも小日向台町小学校の田中校長先生が仰る「自分たちの町は自分たちで綺麗にする」という気持ちで、また、成澤区長が仰るように「拾うゴミがゼロになるその日まで」みんながこの活動を続けていきたいと思いました。



2班

住宅街を抜け、音羽通りの植込みに捨てられたゴミを拾いながら、アップダウンの多いエリアを清掃しました。違う学校から参加している中学生や小学生がお互いに協力して、和やかな雰囲気の中でのクリーンウォークとなりました。中国からの帰国子女の参加者からは、「中国ではこのような行事がないが、町をきれいにすることは良いことだし、気持ちが良い」との感想も聞かれました。



1班

寒い日に関わらず小学生も中学生も自分から進んで参加している人がほとんどで、そのせいか積極的に活動しており、無駄話をしたり不真面目な態度をとっている人は一人もいませんでした。擁壁の排水穴に瓶やカンが押し込んであり、宝物探しの様に夢中でかき出していました。

3班

特に大きなゴミもない中、みんなで楽しくゴミを拾うことができました。途中、鼠坂の壁にネズミの絵が描いてあり、普段気にならないところにも目が行き楽しかったです。

6班

朝方はとても寒く、参加者の方々の体調を心配していましたが、とても楽しそうに掃除をしていて、また、体調を崩した参加者もなく、とても良かったです。幹線道路や公園の茂みにゴミ(空き缶、お菓子の袋、吸い殻など)が多く落ちていたのですが、皆が率先して拾っていました。終了時には、お日様もでて暖かくなり、また、みなさん達成感もあってか、ニコニコしながら参加賞のシュークリームを食べていたのがとても印象的でした。



4班

茗荷谷駅付近では人出も多く、周辺に注意しながらのゴミ拾い。分かっているつもりでも、ついついゴミ探しに夢中。春日通りから脇道に入ると、植込みにはカップ麺の容器や牛乳パック(1リットル)などが捨てられており、驚きながらも楽しく回収する事が出来ました。



5班

曇り空の寒い中、学校を出てしばらくはゴミを探しながらの清掃でしたが、春日通りに出てからは空き缶や紙くずが植込みに多く捨てられていて、手分けして拾いました。